

# LOCAL MONEY ②

地域交換取引制度・LETS (Local Exchange Trading System)

## 相互扶助とコミットメントにもとづくLETS

西部 忠 北海道大学助教授



＜西部氏と LETS の考案者マイケル・リントン氏＞

この10年、世界経済は大きな変動と混乱を経験した。金融のグローバル化や市場の自由化は企業や個人の自己責任を高め、経済を効率的にするといわれてきた。しかし、日本でのバブル崩壊と不良債権問題、アジア、南米、ロシア、アメリカでの通貨危機からもわかるように、それらは実際には経済を不安定化し、不況や失業という形で人々の生活にも深刻な被害をもたらした。

市場や政府にすべてを委ねることはできないとするどのような経済社会をめざすべきか。相互扶助とコミットメントにもとづくLETSがその解答の一つだ。

LETSは、カナダ・ヴァンクーヴァー島のコモックス・ヴァレーで1983年にマイケル・リントン氏により考案された。その基本的仕組みや実際の運用法については前号で林氏が紹介しているし、私も別のところで説明したので、そちらをご覧ください。LETSには次のような特徴がある。

- 1) 流通圏が限定された地域通貨の利用
- 2) 無利子で移転不可の貨幣
- 3) 信用創造なき貨幣
- 4) 自律分散型ネットワーク
- 5) 参加者間のコミットメントと信頼
- 6) 貨幣保有動機の多面化
- 7) 価値・文化メディアへの発展可能性など

ここでは4)と5)に絞って説明しよう。

LETSは、政府が上から作りだす「制度」でも、「政策」により集権的に制御できるものでもない。それは自律分散型ネットワークである。われわれが日々使っている日本銀行券。日本銀行は、これを国家の信用力を背景に独占的に発券し、景気動向を見ながらマネーサプライや公定歩合を調節する（金融政策）。日本で生活するためには、だれもがそれを使わざるをえないし、その受け取りをだれも拒否しない。また、だれもが金融政策の影響を受けている。このように通常の制度や政策は集権的で他律的だ。LETSの考え方はこの対極にある。個人が自発的に参加（退出）できるし、そこでは自分の判断と責任に基いて、個々人が地域通貨を発行し、財・サービスを取引する。取引のネットワークはこうした個人の自由な判断にもとづく行動の結果として生まれる。自律性と分散性がLETSの特徴である。しかも、LETS参加者間の取引関係は市場の取

引関係とは異なる。例えば、太郎が次郎に芝刈りサービスを提供しその代金を10グリーンドルとしよう。すると、太郎の口座には10グリーンドル（黒字）が記録される。しかし、太郎の黒字は次郎にたいする債権ではないし、次郎の赤字は太郎にたいする債務ではない。次郎の赤字はLETSに対する義務ではなく、コミットメント（コミュニティに対する責任）の深さを表す。次郎は、LETSに何らかの財やサービスを提供することにより、赤字を減らす努力をするよう全ての参加者から期待されている。リントン氏の言葉を借りれば、「それは、コミュニティの人々によるコミュニティの人々への約束」である。市場の信用関係は法律上の一対一の権利・義務関係であるが、LETSでは個人が常に参加者全員に関わっている。LETSの特性上、どこかに黒字があれば必ずどこかに赤字があるので、参加者は常に互いに支え合っているわけだ。LETSはコミットメント、信頼、相互扶助を基盤とする。

LETSの利点は、おカネがなくとも地域通貨を発行して財やサービスを手に入れられるところにある。といっても、参加者の中には利己的な人もいて、大きな赤字を残したまま退出してしまうことはないかと疑問に思うかもしれない。ところが、リントン氏によれば、彼の長年の経験でもこうした事例はまれだという。それは、参加者が地域での自分の評判を大事にし、また倫理的非難を恐れるからであろう。だが、それだけでは全てを説明できない。参加者は、助け合いながら、友人、隣人、コミュニティにたいする責任を果たそうとしているのである。

（西部氏は、昨年、北海道経済の活性化策に関する調査研究の委託を社団法人北方圏センターから受け、地域通貨の調査のためにカナダのLETS考案者のリントン氏を訪ねました。参考文献が添えられていましたが、紙面都合上割愛します。必要な方は、ひとまち社にお問い合わせ下さい）